

平成20年 第9回県教育委員会会議
教育長報告

1 報告事項

平成21年度 沖縄県公立学校教員候補者選考試験応募状況について

2 事項の説明

(1) 応募の状況

願書受付期間（5月12日～5月16日）の応募者の総数は5,146人で、昨年度の5,411人に比べ265人減少している。

(2) 今年度の主な改善点

- ① 小学校全科試験の前半と後半部分を入れ替えた。
- ② 一次試験合格者を県教育委員会ホームページに掲載する。
- ③ 小学校体育実技内容の詳細を要項に記載した。

(3) 「教員候補者選考試験に係る改善委員会」の提言を受け、教員候補者選考試験業務における改善点

別紙「新旧対照表」参照

(4) 校種別の応募者数

(△は減)

校 種	本年度応募者数	昨年度応募者数	増 減
小 学 校	1,569	1,632	△ 63
中 学 校	1,183	1,233	△ 50
高 等 学 校	1,782	1,913	△131
中・高共通	349	363	△ 14
養護教諭(共通)	263	270	△ 7
合 計	5,146	5,411	△265

※障害者特別選考希望状況6名（昨年度受験：6名）

(5) 応募者数の多い教科及び少ない教科

(人)

多い教科	小学校(1,569)	高校保体(342)	養護教諭(263)	中学英語(260)
少ない教科	高校水産(5)	高校地学(15)	高校福祉(30)	中学技術(33)

(6) 昨年度実施の最終合格率と今年度の最終合格者数

校 種	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率	H21合格者見込数
小 学 校	1,565	181(66)	12%	120～140程度
中 学 校	1,174	73(33)	6%	40～50程度
高 等 学 校	1,799	131(32)	7%	100～110程度
中・高共通	343	33(10)	10%	30～40程度
養護教諭(共通)	259	14(2)	5%	15～20程度
合 計	5,140	432(143)	8%	305～360程度

※合格者数の()は、追加合格者数を内数で表している。

教員候補者選考試験業務における改善点【新旧対照表】

変 更 後	変 更 前
<p>1 担当者を複数配置して業務を分割する。 ○副担当を配置して、担当者レベルのチェックを重層化する。</p> <p>2 試験作成期間を約2週間延長。作問に要する時間を確保し、問題の妥当性等を検討する。</p> <p>3 問題原稿作成段階におけるチェック体制の強化 ○試験作成委員で定型化されたチェックシートを用いてチェックを行い、文書で報告を行う。</p> <p>4 マークシートへの正答転記を試験作成委員が行い、全員で転記確認し、さらに事務局で確認するなど、チェック体制を重層化する。</p> <p>5 二次試験の時期を変更。(9月13日～15日に実施) ○一次試験実施から二次試験までの期間を延ばし、マークシートの抽出調査等、一次選考の点検に時間をかけることでミスを防ぐ。</p> <p>6 試験問題の持ち帰りを実施。 ○一般教養及び教職教養の問題と解答は、1週間以内にHPで公開</p> <p>7 その他の試験問題は、1週間以内に「行政情報センター」へ公開する。</p> <p>8 「小学校」と「保健体育(中高)」は、男女共通に受付を実施。</p> <p>9 マークシート等、選考試験に係る書類は1年保存。</p>	<p>1 組織のフラット化及び班制に伴う副担当配置が実施されておらず、業務内容のチェックや進捗管理が不十分であったこと。</p> <p>2 試験作成期間が約4週間弱と短かった。</p> <p>3 問題原稿作成段階におけるチェック体制が弱かった。</p> <p>4 マークシートへの正答転記を担当者が行っていた。</p> <p>5 一次試験の選考に係わる期間が短かった。 ○例年、二次試験は、8月20～22日に実施</p> <p>6 試験問題を回収。(持ち帰り禁止)</p> <p>7 試験問題は、一次試験実施後、約3ヶ月後に「行政情報センター」へ公開</p> <p>8 「小学校」及び「保健体育(中高)」は、男女別に受付を実施</p> <p>9 マークシート解答用紙を慣例に従い、破棄していた。</p>